

Message from Dean

学部長メッセージ

最先端を走り続ける。

国際関係学部 学部長
西村 智朗



現代はグローバル化社会とされています。毎日世界中で膨大な量のヒトやモノが移動しています。SNSなどのインターネットの普及やオンライン会議ツールなどの登場によって、情報やコミュニケーションのポータリティもますます加速しています。世界はますます「身近」になったと言えるでしょう。しかしながら、世界には解決されていない問題もまだまだ山積しています。領土や資源の奪い合い、深刻な人権侵害や難民問題、温暖化や海洋汚染などの環境破壊、貧困や格差問題、最近では感染症などが挙げられます。これらの問題は、「グローバル」な問題であると同時に国家や国際機関で協力・調整が必要な「国際的」な問題でもあります。

これらの問題は、それぞれ複雑な原因を抱えており、解決のためには様々な要素を検討しなければなりません。社会科学の分野においても、政治学、法学、経済学、社会学など既存の伝統的な学問領域を横断した研究が必要になります。加えて、先ほど触れた「身近な世界」は、同時に「多様な世界」でもあります。アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアや大海の小さな島々など、それぞれ独自の文化や習慣、言語や宗教が存在します。これら地域の伝統や生活を尊重することも大切です。そのための情報の収集や意見の発信には、英語をはじめとする語学力も重要になります。

すなわち、このような課題に取り組むためには、学際的な知識と世界各地の特殊性を理解し、高度な語学力を駆使する人材が求められています。

立命館大学国際関係学部は、このような国際社会の様々な問題を認識・共有し、その解決策を考え、世界

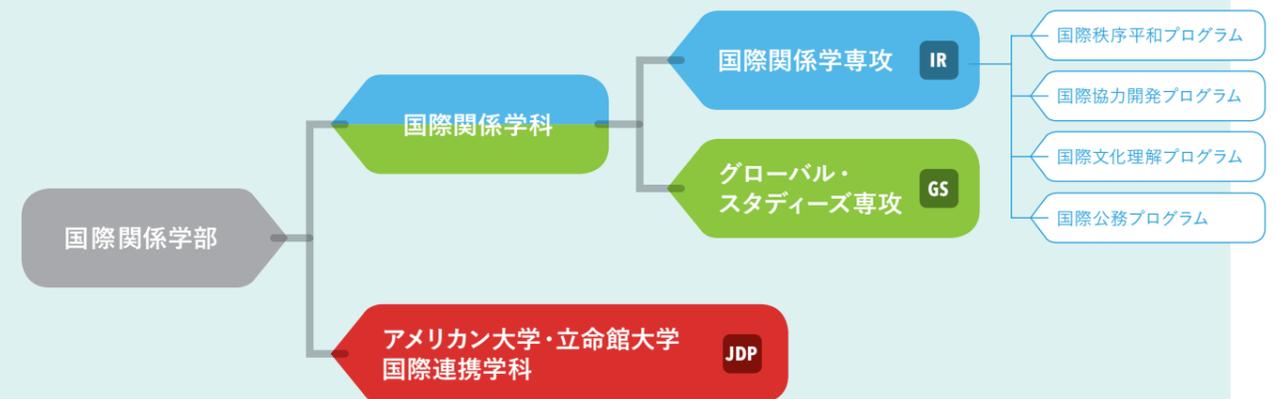
で活躍する人を育成することを目指しています。そのために、本学部には、国際関係の理論を学ぶ多彩な専門科目、世界を網羅する地域研究、そして実践的な英語力とその他国連公用語をカバーする語学教育、すなわち「理論×地域×言語」の三つを究めるための優秀な教授陣が揃っています。この三本柱が、本学部の教学の特徴です。

立命館大学国際関係学部は、まだ米ソ冷戦が終結していない1988年に設立され、日本における国際関係学の先頭を走ってきました。2011年には、従来の日本語での教育を中心とする国際関係学専攻に加え、英語による教育を中心とするグローバル・スタディーズ専攻を新設しました。2018年には、アメリカン大学・立命館大学国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を設立しました。ジョイント・ディグリー・プログラムで日本から学修をスタートする学生は、1年半を京都、2年間をワシントンD.C.、そして最後の半年を再び京都で学びます。このように、本学部では、多くの日本人学生と世界中から集まった国際学生が、日本の伝統文化が息づく京都・京都で交流し、切磋琢磨しています。

学部設立から35年以上を経て、8000人を超える卒業生を送り出していることも本学部の強みです。これまで多くの卒業生が、日本だけでなく世界各国で、民間企業、公務員や国際機関職員、教育研究機関やNPOなど様々な業種で社会に貢献しています。私たちは、これからも、個を磨き、世界に羽ばたく学生を応援していきます。

Departments, Majors & Programs

学科・専攻・プログラム



IR GS 国際関係学科

国際関係学部は、世界各地の学生が高い志を持って集う多文化共存の空間です。多様なバックグラウンドを持った、学生、教授陣が集っています。国際的に教育・研究・社会貢献を行う教員、国際社会のさまざまな分野で活躍してきた客員教授、そして、日本で数人しかいない珍しい専門領域を持つ教員たちから新たな発見や閃きを得

ることができるでしょう。多文化が融合する空間で学び、国際的な感覚と知性を磨き、世界が求めるグローバルな見識と行動力を養います。現代の国際社会が抱える問題を多面的に探求し、既存概念にとらわれずに自分の頭で考え、問題解決に挑みます。主に日本語で学ぶ国際関係学専攻と英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。

多くの科目で、同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。クロス履修システムを活用することで、国際関係学専攻の学生は関心ある科目を英語で学ぶことができ、グローバル・スタディーズ専攻の学生は日本語による科目を受講することができます。

JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

1994年、国際関係学部は日本国内で初めてDUDP（デュアル・ディグリー・プログラム）を導入しました。そこからスタートしたアメリカン大学との長期に渡る教員の相互派遣や教員および職員間の交流を経て、2018年には、DUDPをさらに進化させた学部レベルでは日本初となる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を

アメリカン大学と共同で開設しました。プログラムでは、西欧中心に築かれた学問体系である「国際関係学」を、さらに日本を含む非西洋の視点を取り入れ発展させた「グローバル国際関係学」の修得を目指して京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、単一の共同学位（BA in Global IR）を取得します。



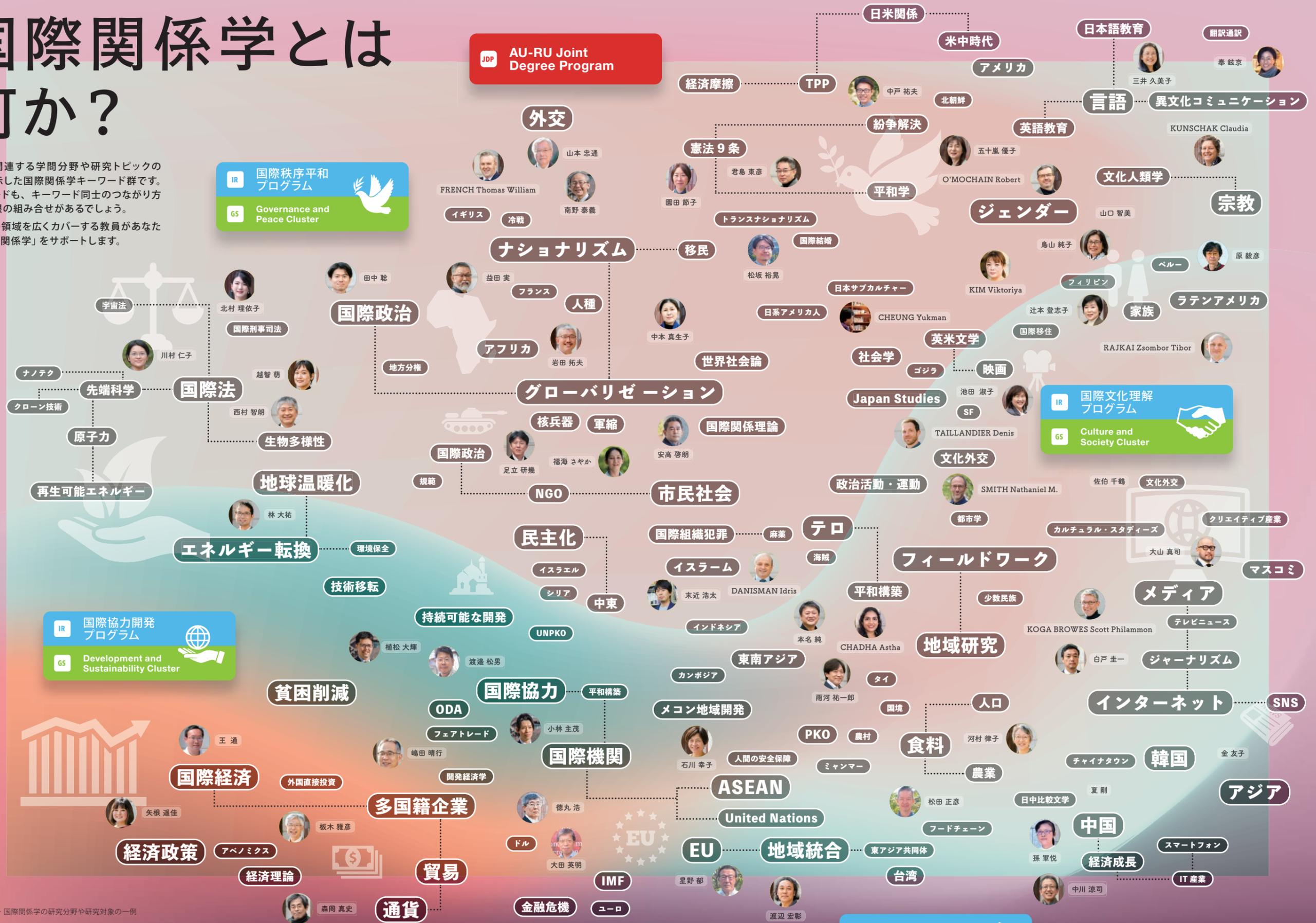
IR AT A GLANCE | 数字で見る国際関係学部

<p>開設年度</p> <p>1988年</p>	<p>卒業生</p> <p>8000+名</p>	<p>学生数</p> <p>1500+名</p>	<p>在学中の留学生数</p> <p>370+名</p>	<p>留学生受入れ国・地域</p> <p>約30カ国・地域</p>	<p>英語開講科目数</p> <p>63科目</p> <p>国際関係学部開講科目全体の40%を占める</p>	<p>海外留学生数</p> <p>年間120+名</p>	<p>外国人教員数</p> <p>32名</p>	<p>外国人教員の国籍</p> <p>14カ国・地域</p>	<p>APSIDA</p> <p>Association of Professional Schools of International Affairs</p> <p>APSIDAとは、国際関係学が取り扱う諸問題に関する教育の実施と、この分野における高度専門知識を持つ人材の養成を目的に設立された非営利組織です。ハーバード大学、コロンビア大学、エール大学、アメリカン大学などが加盟しており、日本からは、立命館大学国際関係研究科が唯一の正規会員として加盟しています。</p>
---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------	--	---	-------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---

2024年5月時点の実績を掲載しています。

国際関係学とは何か？

これは関連する学問分野や研究トピックの一部を示した国際関係学キーワード群です。キーワードも、キーワード同士のつながり方も、無限の組み合わせがあるでしょう。これらの領域を広くカバーする教員があなたの「国際関係学」をサポートします。



IR 国際秩序平和プログラム
GS Governance and Peace Cluster

IR 国際協力開発プログラム
GS Development and Sustainability Cluster

IR 国際文化理解プログラム
GS Culture and Society Cluster

IR 国際公務プログラム

..... 国際関係学の研究分野や研究対象の一例
 国際関係学部の教員

多文化が融合する空間で学ぶ。

国際関係学科

Department of International Relations

国際関係学専攻

International Relations Major



国際秩序の動態を歴史、法、政治、解決・実現方法の四つの角度から学ぶ「国際秩序平和プログラム」。持続可能でバランスの取れた国際協力や開発のあり方を学際的、体系的、実践的に探求する「国際協力開発プログラム」。国際社会の政治・経済構造と文化の関係、異文化理解の方法、異文化衝突の問題などを学び多文化共生の道を探る「国際文化理解プログラム」。国際機関、国家および自治体の公務行政について学ぶ「国際公務プログラム」。個々の関心事に沿ったプログラムを選択し、より専門的に深めていきます。



国際秩序平和プログラム

国際社会のダイナミズムを学び、新しい国際秩序のあり方を探る

国際秩序の歴史と現在、そして新時代の展望を、国際政治・国際関係論・国際法・国際経済などの分野から総合的に学修。戦争・平和・人権から、紛争や経済摩擦まで、幅広い問題を解決するための新たな手法を探ります。



国際協力開発プログラム

持続的な社会と経済発展を両立する国際協力・開発援助のあり方学ぶ

途上国の現状や国際協力・援助など、国際的な社会・経済発展の条件や貧富の格差の問題を実践的に学修。政府や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの活動も視野に入れながら諸問題の解決策を探ります。



国際文化理解プログラム

高度な異文化理解力を身につけ、共生社会の実現にアプローチ

グローバル化が進む現代において、多様な文化や価値観を尊重しあい、共生社会を育てて行くことは重要なテーマです。さまざまな文化や社会を比較考察し、多文化共生の道を探ります。



国際公務プログラム

国際関係の学びを国内外の行政キャリアへと繋ぐ少人数教育

外交官をはじめとする国家公務員や国連職員、地域を支える地方公務員など、行政を担うキャリアをめざす学生が切磋琢磨しながら、グローバルな公共政策や国内外の行政に関する実務と理論を学びます。



グローバル・スタディーズ専攻

Global Studies Major



2011年に開始した「国際関係学」を英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。開設当初は1学年60名でスタートしましたが、学生や社会からの強い要望に応え、2018年からは1学年100名に定員を拡大しました。今では約30カ国から集まる学生と11カ国から集まる教員が多様な文化を抱える学びの集団を形成しています。2018年度カリキュラム改革を経て、プログラム間の境界を越えて自由に科目を選択できる、より学際的なコースを提供します。



This major seeks to stimulate a systematic learning, while going beyond the borders of academic, scientific, disciplines. The program is designed to be flexible, with students able to design their learning programs based on their interests and career goals. The program puts a focus on courses related to Japan and Asia and has increased these courses. In the first year, students take a range of introductory and foundation courses as well as academic skills courses, which develop a foundation for their studies in English. From the second year, students start their study of core courses choosing from a mixture of 3 clusters detailed below.

Governance and Peace Cluster

International Law, Security Studies, Global Political Economy, Comparative and Global Governance, Peace and Conflict Studies, International Organization, International Human Rights, Advanced Topics in International Relations



Development and Sustainability Cluster

Development Studies, Global Environmental Issues, Microeconomics, International Trade and Investment, International Finance, Global Civil Society and Development, Advanced Topics in International Relations



Culture and Society Cluster

Race and Ethnicity in the Modern World, Media and Society, Cultural Awareness and Communication, Global Sociology, International Migration, Topics in Identity, Advanced Topics in International Relations



国際政治の中枢で学ぶ。

アメリカン大学・立命館大学 国際連携学科



American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program

アメリカン大学と立命館大学が共同で開設する国際連携学科(ジョイント・ディグリー・プログラム)では、京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、共同学位(学士「グローバル国際関係学」)を取得します。世界の動きを肌で感じながら、専門分野に加えて語学力を伸ばし、国際感覚を培うことができます。アメリカン大学は、国際関係学において全米9位(学部)*。1963年の卒業式では、ケネディ大統領が「平和の戦略」の演説を行う等、オバマ大統領をはじめとする歴代の大統領が訪れる大学です。日本の伝統文化と革新の気質が融合する京都と、激動の政治の中心に位置するワシントンD.C.。二つの都市での学びは、歴史・文化そして国境を超えた人との交わりを可能にし、世界中の人々とのネットワークを築き、グローバル・リーダーの精神を育みます。



*Foreign Policy Magazine (2018)のランキング

グローバル国際関係学とは

JDPでは、西洋の国際関係学の枠組みを超えた、「グローバル国際関係学」を修得することを目指しています。これまでの「国際関係学(IR)」は、西洋、とりわけ英米的視点によって発展してきましたが、国際社会の多元化に伴い非西洋的視点の必要性が国際関係学の世界でも主張されています。こうした状況のなかで、非西洋社会に位置しつつも西洋をモデルとした近代化を成し遂げた日本社会において、西洋および非西洋という二項対立的視点を超えた新たな国際関係学を学ぶ意義と必要性が高まっています。アメリカと日本、二つの視点から国際関係学を考えていく新しい挑戦です。

ラーニングスケジュール

立命館大学から学修を開始する「RU Home Students」は、入学後、最初の1年半を立命館大学で学びます。授業は全て英語で行われ、国際関係学部在籍する多くの留学生や、立命館大学で学修中のアメリカン大学の学生と共にグローバルな環境下で学びます。2回生の秋学期からアメリカへ学ぶキャンパスを移動し、4回生春学期までの2年間をアメリカン大学で学びます。4回生の5月末ごろに日本へ帰国、4回生の秋学期にもう一度立命館大学で学び、最後の1学期で4年間の集大成である卒業研究をまとめ、卒業します。

学修支援プログラム

JDPは、学生が4年間で二つの大学で学び、一つの学位を共同で授与されるこれまでにないプログラムです。プログラムでは、参加学生が着実に充実した4年間を過ごすため、様々なサポートプログラムを用意しています。米国の大学に直接進学する場合に比べて、英語能力向上の支援や進路・就職面のキャリア・サポートなど、日本の大学ならではのサポートを受けることができると同時に、アカデミック・アドバイザーといった日本の大規模大学では珍しい、国際基準の学修サポートが実施されます。

R 立命館大学 HOME	1年目		2年目		3年目		4年目	
	1 SPRING	2 FALL	3 SPRING	4 FALL	5 SPRING	6 FALL	7 SPRING	8 FALL
	立命館大学	立命館大学	立命館大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	立命館大学
	Core/Foundation/Cohort Courses					Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program		Senior Capstone Program (Seminar)
	Academic Skills (Building Foundations of Academic Writing)		Research Methods					
	Japanese/English (if necessary)		Thematic and Regional Courses					

Timeline

充実した学部での学びを実現する上で、4年間の学びの流れを理解し、プランニングする。そして、どのように自分だけの学びとキャリアにつなげていくか思い描く。国際関係学部でどのような4年間を過ごしていくかは、あなたの無限の発想力と行動力次第。

4年間の 大学生活の設計

4年間の学びのプランを立てましょう。国際関係学部での学習、留学、課外活動、資格取得、就職活動などについて、4年間の中でいつ、どのように取り組むのか。現時点での目標を明確にし、スケジュールを立てましょう。



プログラムごとに専門分野の主要概念を学びながら、英語の4技能を修得。グループワーク、プレゼンテーション、ディベート、クラス全体でのディスカッション等を行います。

専門分野の基本文献の精読に挑戦します。担当教員のサポートを受けながら、文献を読み込むトレーニングを行います。

専門演習や専門科目を通じて 専門的知見を深める

国際関係学部の学生は3年生から卒業まで、「専門演習(ゼミ)」を履修します。2年間、同じ担当教員のゼミに所属し、自分の興味ある分野を、興味を同じくする仲間と共に学び、学修の集大成である卒業研究の作成に必要な力を身につけていきます。



就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。

Start!

1 回生

1回生 春学期

- First Year Retreat
- 基礎演習

1回生 秋学期

ゼミ形式で、大学での学び方や研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。

国や国際機関といったアクターに扮し、国際政治や国際経済の大きな動きの中で「政策立案」、「交渉過程」などのプロセスを擬似的に体験することで、国際関係の動きを学びます。

- ブリッジ科目 (BIS) の履修
- グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG) の履修
- 国際関係学セミナーの履修

★ プログラムに所属
* IR専攻のみ

3 回生

3回生 春学期

★ 専門演習(ゼミ)の履修

3回生 秋学期

■ 就職活動

4回生 春学期

★ 卒業研究の作成

4回生 秋学期

2 回生

プログラムに所属*し
国際関係学の基盤を築く *IR専攻のみ

プログラムごとの専門科目の履修、専門的な英語運用能力を養うための科目の履修が始まります。これらの科目の履修、授業外での様々な活動を通じ、国際関係学の基礎を習得しましょう。

キャリア支援教育

行政、メディア、民間企業といった各業種に対する理解を深める「プロフェッショナル・ワークショップ」、実践にこだわらず、原理的・理論的に自らのキャリア問題を捉える「キャリア・デザイン」など、キャリア形成を見据えた正課科目を開講しています。



専門演習/Advanced Seminar

幼い頃から親しんできたフラ・ハワイ文化に研究対象として向き合う

大友 梨沙さん (GS専攻4回生)



ハワイからやってきたフラが日本人にどのように楽しまれパフォーマンスされているか、また国境を超えた文化の移動がフラやハワイ文化の真正性にどのような影響を与えているのか、英語の文献を読んだり、インタビューやフィールドワークを通じて研究しています。ゼミでのプレゼンテーションでは、クラスメートから予期していなかった質問や意見ももらいます。多様なバックグラウンドを持ち、鋭い洞察力と見解を持つ彼らの存在は、私の研究のガイドとなっています。

4 回生

4年間の集大成
卒業研究の作成

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となるもの。国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

卒業研究/Graduation Research

日本の国際宇宙ステーション参加計画はいかに決定されたか?

余頃 彩香さん (IR専攻2024年卒業)



日本における国際宇宙ステーション計画の決定について分析しました。政府資料などの一次資料を入手するため国立国会図書館に向向く、開示請求をするなど、資料集めには苦労しましたが、普段ならば手を伸ばさない本や手間暇かけて集めた資料をから得た知識は、知る喜びをあらためて感じさせてくれました。卒業論文を先生やゼミ仲間の助言を得ながら執筆する体験を通して、先人・他人の知恵を借りることができるようになったと思います。

First Year Retreat

4年間の学びの計画を立てるため、丁寧なオリエンテーションが行われます。2年生からのプログラム選択やゼミ選択、また留学等の様々な学びの機会や将来の進路選択等について、学部の教職員やOB/OGの先輩たちとともに模索し、「学びと成長」の礎を築きます。



基礎演習/Introductory Seminar

大学での学習の基礎を学びながら
広い視野で物事をとらえる力が養えました

横山 好さん (GS専攻2回生)



レポートの書き方や情報の調べ方など、大学での学習の基礎を学ぶことができます。ここで得た知識は他の授業でのレポートや調査にも使うことができるものです。レポートについて学生同士で意見交換をしたり、テーマを発表する中で、自分では思いつかないようなアイデアを発見したり、自分と違う視点や物事に対する考えを知ることができ、広い視野で物事をとらえる力が養えたと思います。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG)

ロシア・ウクライナ戦争への対応を
中国の外交官として考える

新本 和さん (IR専攻3回生)



GSGは事前準備の量が他の授業に比べて明らかに多いです。自分がアクターとして担当する国についてはもちろん、交渉したい国についても調べなければなりません。アクターの立場や未来について考えながら、現在進行形で進んでいる政治、経済、エネルギーなど多くの情報をもとに話し合いを進めていくので、広い視野を得られるのももちろん、論理的思考力や情報処理能力、計画力もつくと思います。

Courses

クロス履修システム
 両専攻では、大半の科目で同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講。各専攻の学生は、他専攻の科目を半分近くまで履修可能です。

IR
国際関係学専攻

基礎演習
国際関係学
国際連合入門
平和学入門
法学
経済学

政治学
社会学
言語学
文化人類学
English for International Studies (EIS)
初修外国語

国際経済学
国際政治学
国際文化・社会学
地域研究論
グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG)

国際関係学セミナー
Bridge to International Studies (BIS)
Intensive English (IE)
国際法
国際協力論
途上国政治論

欧米政治史
国際ジャーナリズム論
比較文化論
プロフェッショナル・ワークショップ
東南アジア研究

ヨーロッパ研究
北アメリカ研究
東アジア研究
アフリカ研究
ラテンアメリカ研究
中東研究

専門演習
国際人権法
国際機構論
比較政治論
地域開発論
開発経済論

安全保障論
開発と食料
開発政策論
メディア・文化論
文化交流史
宗教と国際関係

国際貿易投資論
国際金融論
環境経済論
比較家族論
異文化コミュニケーション論
卒業研究 など

日本語開講

英語開講

GS
グローバル・スタディーズ専攻

Introductory Seminar
Theories of International Relations
Introduction to United Nations
Introduction to Peace Studies
Politics for Global Studies

Economics for Global Studies
Sociology for Global Studies
Academic Skills (AS)
Kyoto and the Japanese Arts
Macroeconomics

Global Simulation Gaming (GSG)
Global Studies Seminar
Introduction to Area Studies
International Law
Security Studies

Global Political Economy
Development Studies
Media and Society
Microeconomics
Global Environmental Issues

Cultural Awareness and Communication
Race and Ethnicity in the Modern World
Advanced Seminar
Peace and Conflict Studies

International Human Rights
International Organizations
International Finance
International Trade and Investment

Global Civil Society and Development
Global Sociology
International Migration
Topics in Identity

Advanced Topics in International Relations
Graduation Research
など

JDP
アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

立命館大学（京都）で受講する科目 立命館大学から学修を始める際の一例。学習スケジュール、選択する分野などによって選択できる科目は異なります。

<p>Introductory Seminar Theories of International Relations Macroeconomics Microeconomics</p>	<p>Japanese Culture Introduction to the United Nations Comparative and Global Governance Academic Skills (AS)</p>	<p>Introduction to Gender Studies Security Studies Japanese Politics Japanese Society</p>	<p>Japanese Economy Japan-United States Relations Advanced Seminar Graduation Research</p>
--	--	---	--

アメリカン大学（ワシントンD.C.）で受講する科目

<p>SISU-106 First Year Seminar SISU-206 Introduction to International Relations Research SISU-212 China, Japan and the United States</p>	<p>SISU-306 Advanced International Studies Research SISU-312 Governance, Development, and Security in Asia SISU-359 Environment, Conflict, and Peace</p>	<p>SISU-368 Differences and Similarities in Conflict Resolution SISU-380 Topics in Global and Comparative Governance SISU-393 International Relations Theory</p>	
--	--	--	--

外国語の選択

日本語を母国語とする入学者は、英語と初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語のいずれか1語種）を、留学生は英語と日本語を学修します。また、希望する学生は3回生以降、国連公用語であるアラビア語、ロシア語を履修することが可能です。

基礎演習

Introductory Seminar
1回生が入学直後から所属するゼミ形式の授業です。大学での学び方、研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習のクラスは4年間を共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生などが生活・学修の両面をサポートします。

基礎科目と基幹科目

General Education Courses & Foundation Courses
IR専攻では、法学、政治学、経済学など、GS専攻では、Politics for Global Studies などにより、国際関係学「理論」の基礎を築きます。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング

Global Simulation Gaming (GSG)
IR専攻とGS専攻を統合し、2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会でもあります。

国際関係学セミナー (IRセミナー)

Global Studies Seminar (GSセミナー)
IR専攻の四つのプログラムに制限されることなく、自由に選択した分野を、より専門的に学び始めます。IR/GSセミナーでは、担当教員のサポートを受けながら、各分野の古典や基本的文献の購読や読み込むトレーニングを行います。

専門演習

Advanced Seminar
3・4回生を通じて所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門にする先生の下で興味を同じくする仲間と学ぶ2年間であり、卒業研究に向けて準備をする場でもあります。すべての学生がゼミ（専門演習・Advanced Seminar）に所属し、切磋琢磨しながら卒業研究の基礎となるタムペーパーを作成します。



地域研究科目

Area Studies Courses
専門分野および研究課題を選択するとともに、具体的にその分野に関与する特定の「地域」に焦点を当て、他の地域（多くの場合、日本）と比較しながら、研究課題をさらに深く掘り下げます。その範囲は、北アメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本、アジア、東南アジア、中東、アフリカなど、オセアニアを除くほぼ全域に及びます。

固有専門科目

Core Program Courses
国際関係の諸側面に関わるさまざまな専門科目を設置しています。なかでも3回生以降は、比較政治論、国際機構論、開発政策論、メディア文化論、International Organizations, Global Civil Society and Development, Global Sociologyといった、各プログラムや各クラスターにおける理論を深く学びます。これらを通して複雑なグローバル社会を総合的・立体的に把握し、自らの問題意識の醸成に繋いでいきます。

卒業研究

Graduation Research
担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となります。卒業研究を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

キャリア選択と支援

就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。就職活動中は東京や大阪のキャンパスでも支援が受けられます。オンキャンパスで行われる就職セミナーや企画も多数開催しています。また、国際連携学科の学生は、ワシントンD.C.においてさまざまな企業の就職のワークショップに参加できると同時に、日本からも支援を受けることができます。

グローバルエデュケーションを支える 国際英語プログラム

TOEFL®およびCEFRの国際標準規格を基にした能力別クラス編成（25名まで）を行い、専攻ごとに用意されている科目、English for International Studies (EIS)、Bridge to International Studies (BIS)、Academic Skills (AS)、Intensive English (IE) で英語による専門講義の履修（クロス履修）と交換留学に備えます。

クロス履修システム

授業は専門的で大変ですが、留学生との交流はとても新鮮です
 佐藤 風花さん (IR専攻3回生)

授業は専門的で課題も難しく、事前に文献を読んだり、出席し続ける事は大変でした。GSは英語が流暢な方が多く、自分との知識量や経験の差、見てきた世界の広さに圧倒され打ちのめされる事もありますが、自分と他との関係性や社会のいたる所にある関係の輪、ひいては国際的な関係性をつかみ、さまざまな視点を得る機会となっています。

Voice

両専攻の授業を横断して自分に必要な知識を身に付けられる
 藤野 拓人さん (GS専攻4回生)

JICAでのインターンシップや卒業論文を執筆する上で統計学を学びたいと思い、IR専攻の授業を積極的に履修しました。GS専攻にはない科目がIR専攻では開講されていることもあるので、自分の学びたいジャンルに応じて両専攻の授業を横断することで自分の知見の幅を広げることできる素晴らしい制度だと感じています。

Voice

Global Education

www.ritsumei.ac.jp/
studyabroad/
海外留学プログラムサイトで詳しく紹介しています



英語科目 / Academic Skills / Intensive English

国際関係学部では、学科や専攻、学年に合わせて様々な英語の授業を開講しています。

国際関係学専攻の学生が1年次に受講するEnglish for International Studies I~IVは、国際関係やそれに関連のある内容の教材を使用し、総合的な英語運用能力を修得することを目的とした科目です。2年次には、英語で国際関係学の専門分野を学ぶための力を養うためにBridge to International Studies I~IIIを受講します。入学してから2年間継続して英語を学ぶことにより、英語で開講される授業や交換留学に備えることができます。

また、グローバル・スタディーズ専攻と国際連携学科の学生は1年次にAcademic Skillsという授業を受講します。これは英語で国際

関係学の科目を受講するために必要なアカデミック・スキルを養うための授業です。

これらの授業はTOEFL®およびCEFRの国際基準規格を基にして能力別にクラス編成がおこなわれているため、自分のレベルにあったクラスで効果的に英語力を伸ばすことができます。

これらの英語科目に加え、主に交換留学を希望する学生に向けて、英語の苦手分野を克服することに重点を置くIntensive Englishという科目もあります。語彙と読解、スピーキングとリスニング、ライティングと文法という三つのクラスがあり、選考の上、自分の苦手分野の授業を受講することができます。

人と比べることなく、自分と向き合って自分に合った勉強法で学習してきました

高橋 かのんさん (IR専攻2回生)



高校までは英語を実践的に利用する場面はあまりなかったのですが、国際関係学部では実際にディスカッションやプレゼンテーションで英語を利用する場面が多く、英語で文章を組み立て、自分の意見を言うことにとても苦労しました。しかし、1年を通して、自分ができることに集中してやり切ることがいかに大切なことであるかを痛感しました。毎回の小さな積み重ねが遅かれ早かれ最終的に大きな結果として現れると思います。

刺激的な環境の中で英語力の向上を感じています

佐藤 孔明さん (IR専攻2回生)



1年生時の英語の授業は週に4コマあり、英語に触れる機会が高校時代に比べ格段に増えました。帰国子女や英語が堪能な学生が周りに多くおり、非常に刺激的な環境の中で英語力の向上を感じることができました。課題に熱心に取り組んできたことも英語力の向上に直接的に影響を与えたと感じています。また、外国語コミュニケーションルームを積極的に利用し、空き時間に英語で会話するなど、外国語に触れる機会を多く作り、リスニングやスピーキングの向上にも努めています。



ライティング・チュートリアル・プログラム

ライティング・チュートリアル・プログラムとは、日々の授業でのレポート・論文の執筆や、大学の学修の集大成である卒業論文を執筆するために必要な「アカデミック・ライティング」を身につけるための個別サポートプログラムです。

国際関係学部では、2018年度カリキュラムより「卒業研究(卒業論文)」が必須となりました。質の高い卒業論文を書くのに必要なアカデミック・ライティングのスキルは、学習と経験の積み重ねにより身につきます。国際関係学部ではその一つの機会として、日本語と英語のライティング・チュートリアルを実施しています。論文作成経験が豊富な国際関係研究科の大学院生及び国際関係学部の上回生(チューター)と1対1で授業の課題レポートに共に取組み、アカデミック・ライティングのスキルを磨いていきます。

このプログラムでは、チューターが学生のレポートを書き換えることはしません。学生がより良いレポート・論文の自立的な書き手になるようにアドバイスをします。

チューターは、チュートリアルを効果的に行えるよう研修を受けています。また、チューター研修には1回生の授業を担当する教員も参加し、授業の課題レポートにおける重要な点についてチューター

と意識合わせを行います。

ライティング・チュートリアル・プログラムを利用した学生を対象に実施したアンケートでは、97%の学生が「また利用したい」と回答しています。

作法に基づいた文章を書く技術は継続的に取り組むことで磨かれるもの

半田 あづみさん (国際関係研究科・国際関係学専攻・博士後期課程4回生)



大学でレポートや論文を作成するにあたり重要なポイントは2点です。一つ目は、学術文は感想文ではないことを知ること、二つ目は、学問のうえで「考える」とはどういう思考作業であるのかを自分でよく考えることです。大学で扱う問いは、一問一答形式で成り立つような正解がある世界ではありません。人や場所、時代等が変わることと言えることはさまざまです。これらを加味して思考することを多角的思考と呼んでいるのだと思います。難しそう、と思ったら、まずはチュートリングの場へいらしてください。

[全学募集] 海外留学プログラム

留学の目的や意義は一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されています。2023年度には173名の国際関係学部の学生が留学・国際プログラムに参加したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航をする学生も多数います。留学準備は国際教育センターが丁寧にサポートし、危機管理についても事前に情報提供を行います。

*プログラム実施の有無等に変更が生じる場合があります。最新の情報は必ず募集要項にて確認してください。

長期留学プログラム | 半年~1年間

語学力を高めながら、外国語による講義を受けるプログラムや、正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラムがあります。正規の学部留学の場合は、現地の正規学生と同様に授業を受け、単位取得を目指します。多くの国際関係学部生が長期留学に参加しています。

代表的な留学プログラム

- 立命館・UBCアカデミック・イマージョン・プログラム
留学期間：8ヵ月
留学先：カナダ
- 交換留学
留学期間：半年~1年間
留学先：世界34ヵ国・地域、150大学・機関
- ASEANで学ぶ国際PBLプログラム
留学期間：4ヵ月~5ヵ月間
留学先：インドネシア・タイ

1セメスター留学プログラム | 4ヵ月~6ヵ月

長期留学プログラムも視野に入れた語学力の向上と現地での外国語による講義の受講を目的としたプログラムです。語学レベルが中級程度の方を対象に、特定のテーマについての講義やフィールドワークを行います。

代表的な留学プログラム

- 立命館・カリフォルニア大学デービス校
留学期間：6ヵ月
留学先：アメリカ
- 立命館・ヨーク大学
留学期間：4ヵ月
留学先：イギリス
- 立命館・ワシントン大学
留学期間：4ヵ月
留学先：アメリカ



短期留学プログラム | 1週間~6週間

語学力の向上と異文化体験を主な目的としたプログラムです。海外への渡航経験が少ない方や語学レベルが初級程度の方でも参加可能で、フィールドトリップや集中的な語学学習を通じて異文化理解を深めます。

代表的な留学プログラム

- Global Fieldwork Project
留学期間：1週間
留学先：ベトナム、マレーシア、カンボジア、タイ、インドネシア、台湾
- 現地で学ぶ初修語セミナー
留学期間：3~4週間
留学先：台湾、中国、韓国、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ
- 異文化理解セミナー
留学期間：2~4週間
留学先：カナダ、シンガポール、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド

*上記の他、海外スタディなどのプログラムも提供しています。

奨学金

立命館大学では、海外留学プログラムに参加する学生のみなさんを支援する奨学金制度があります。その一つである「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」(給付型)は、参加費用の一部の補助を通じて、みなさんの海外留学プログラムへの参加・修了を奨励しています。(2024年現在)



Voices

www.ritsumeai.ac.jp/
ir/special/intro/
続きは Web ページをご覧ください



国際関係学部の学生は実際にどんなことを、どんなふうに学んでいるのか？
ゼミ、課外活動など、最新の情報、生の声を Web ページで紹介しています。

国際関係学とは何か？

国際関係学で何を学べるのか、教員の研究をひもとき、
豊富なエピソードで描き出していきます



PEOPLE of IR

キャンパスで、海外で活躍する
在学生・卒業生のインタビューサイト



模擬授業・オンライン講義シリーズ



Careers

VOICE

外務省 在米国日本大使館



高野 雅範 さん
2007年国際関係学部卒業

世界は今、歴史的な変革期。
昨日の常識にとられない、やる気に満ちあふれた人に
外務省を目指してほしい。

学生時代のアメリカ留学中からずっと、世界を相手にしたい、国際
関係に携わる仕事がしたいと考えていました。当時は周りに外務省志
望者がほとんどおらず、外務省で仕事をすることが具体的にイ
メージできずでしたが、学生時代から学んできた国際政治に関す
る知識や、留学中に得た経験、そして国際関係に携わりたという思
いなどを考え合わせ、外務省を選びました。

国際関係学部で学んだ授業の内容と、英語によるコミュニケーション
が仕事で役立っていると思います。外務省で働く上で、国際関係学
部で学んだ授業の内容は、振り返ってみるとほとんど全てが今の仕事
の基礎として役立っていると感じます。外務省では本当に多種多様な
業務に携わることとなります。そのため、学生時代に幅広い知識を身
につけておくことが非常に重要です。英語によるコミュニケーション
は、主に留学中に身についたとは思いますが、国際関係学部の学生は、
留学に行くことが割と普通という雰囲気があり、海外に目を向けてい
る学生が多かったので、共通の話題で盛り上げられる仲間がいたことは
大いに励みになりました。

立命館大学は、手厚い留学サポート体制、奨学金を含めた公務員
志望者支援制度など、制度面で非常に恵まれていたと感じます。個人
的にもそういった体制を在学中は大いに活用させていただきました。

世界は今、本当に歴史的な変革期にあると思います。昨日の常識が
今日には既に常識でなくなっている、そういう状況です。そういう時
に実際に役に立つのは、SNSで得られる瞬間的な情報ではなく、歴
史から学んだことや、自分自身が実際に経験して身につけた物の見方
だと思います。

VOICE

独立行政法人 国際交流基金



益子 理帆 さん
2021年国際関係学部卒業

日韓関係をより専門的に学びたいという思いから国際関係研究科
へ進学。「日本の友人をふやし、世界との絆をはくむ」という国
際交流基金のミッションは、まさに私の思いを表しています。

就職活動中は、日本と海外の相互理解を促進する仕事がしたいと
いう思いで一貫していました。学生時代に韓国に留学した経験から、
より多くの人に文化を通して日本を好きになってもらいたいと思うよ
うになりました。「日本の友人をふやし、世界との絆をはくむ」という
国際交流基金のミッションは、まさに、私の思いを表す内容だと言え
ます。

独立行政法人国際交流基金では南アジア地域を担当しています。主
な業務は日本語専門家の海外派遣と海外日本語教育機関への支援(助
成)です。南アジア地域では、日本語の専門家をインドとスリランカ
に派遣しています。専門家の先生方の赴任から帰任までのサポートが
メインとなりますが、報告会や、国際交流基金の拠点の一つである
ニューデリー日本文化センターとのやり取りを通して現地の様子を知
ることができる点は興味深く、楽しい時間です。

国際関係学部・研究科では、履修の仕方によって、学科として設立
されている研究分野のほとんど全てに触れることができるのではない
でしょうか。関心分野を追求しながら、新たな分野を広げるきっかけ
に出えるということはとても貴重なと思います。

また、多様なバックグラウンドを持つ仲間と講義を受けることで、自
分と異なる解釈に触れることができ、視野も広がります。そして、疑
問に思ったことは、すぐに教授に質問に行くことができる環境が整っ
ています。他大学の友人と話すことで、国際関係学部・研究科の教授
の学生との距離の近さは当たり前ものではないと気づきました。国
際関係学部の一員となった日には、自分の行動次第で多様な学び方
が可能な環境を是非、最大限、有意義に活用してほしいです。

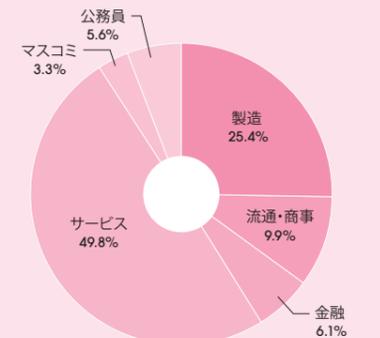
進路・就職状況

開設35年をむかえ、世界の第一線で8,000名以上の卒業生が活躍

世界に広がるネットワークを活かして、国際的な機関やメーカーなど企業の国際業務セクションに多く採用されています。
世界の有力大学院にも多数進学しています(ジョージ・ワシントン大学、オックスフォード大学、ジョンズ・ホプキンス大学など)。

2023年度卒業生 就職先一例

アクセンチュア(株)	シャープ(株)	(株)毎日新聞社
アビームコンサルティング(株)	ANA(全日本空輸(株))	(株)三井住友銀行
アマゾンジャパン合同会社	ダイキン工業(株)	三菱商事(株)
(株)エイチ・アイ・エス	東海テレビ放送(株)	三菱電機(株)
エイベックス(株)	豊田通商(株)	(株)読売新聞大阪本社
関西電力(株)	日産自動車(株)	楽天グループ(株)
京セラ(株)	日本アイ・ピー・エム(株)	(株)リクルート
(株)クボタ	日本航空(株)	ローム(株)
独立行政法人国際協力機構	日立造船(株)	(株)ロッテ
(株)サイバーエージェント	(株)ファーストリテイリング	国家公務員一般職(国土交通省)
サッポロビール(株)	富士通(株)	国税専門官
JFE商事(株)	Bloomberg L.P.	地方公務員(上級職)



◎円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。
◎掲載処理の関係で100%にならない場合があります。

京都で学ぶ

Kyoto

文化と歴史の街であり、ユニークなカルチャーが息づく
大学の街である、京都。
ここにしかないキャンパス・ライフがあります。

Voice

大友 梨沙 さん
(GS専攻4年生)



私は生まれも育ちも京都で、天気の良い日には自転車で京都なら
ではの自然を感じながら登校するのが好きです。四季折々の自然
を日本らしいお寺や神社などの歴史情緒溢れる景観やイベントと
一緒に楽しむことができるのも京都の魅力だと思います。春には
宇治川の背割堤の桜を、夏には浴衣を着て祇園祭へ、秋には清
水寺で紅葉を、雪の降る冬には金閣寺の白銀世界を、京都にしか
ないたくさんの唯一無二の体験を味わうことができます。